新型コロナの後遺症かも

お医者さんに聞いてみよう ④

新型コロナウイルスの感染から回復しましたが、倦怠感や味覚障害などが続いています。これらは後遺症に該当するのでしょうか？　有効な治療法はありますか？

症状強ければ 受診早めに

世界保健機関（WHO）は新型コロナに感染した後にさまざまな症状が2カ月以上続くことを「罹患後症状」と定義し、日本国内では「後遺症」と呼んでいます。後遺症の主な症状を図に示します。

後遺症が出現する頻度は、オミクロン株流行後に減少傾向にあり、国内の調査では感染後1カ月で5%、約3カ月で2・5%程度とされています。実際の臨床現場では2～3週間以上続く症状を後遺症として診療しますが、症状の多くは感染から1カ月以内に消失します。倦怠感や味覚障害は自然に治まることも多く、1～2カ月程度続く場合は後遺症に該当すると言えます。

≪答える人≫

長岡 健太郎 さん
富山大付属病院 感染症科准教授

✓ 後遺症の出現 減少傾向
✓ 多くは1カ月以内に消失
✓ さまざまな対症療法ある

後遺症を考える上で重要な点が「肺炎の併発の有無」です。パンデミックの初期は肺炎が併発する割合が高く30～50%でした。新型コロナのウイルス性肺炎はウイルスがいなくなっても肺での炎症が続きます。このため周囲に感染させる可能性は1～2週間で消失しますが、倦怠感、呼吸困難感、せきが1～3カ月程度続いていました。

第7波以降は、ほとんどのケースで肺炎を併発しなくなったため、これらの呼吸器症状も1カ月以内で消失することが多くなりました。また、味覚障害や嗅覚障害も従来ほどは長引かない傾向にあります。

一方「血管での炎症」や「気道以外の臓器での炎症」が、流行期を問わず一定の感染者にみられます。これらのケースでは倦怠感、脱毛、筋力低下・筋肉痛、腹部症状（腹痛、下痢）につながり、症状が長引くことがあります。これらの症状が1カ月以上続く場合は、内科の受診を強くお勧めします。

一般的な後遺症と受診すべき診療科は表の通りです。どの診療科を受診したら良いか分からない場合、まずは内科の受診をお勧めします。また後遺症は診断が難しい場合も少なくありません。受診前に医療機関に電話などで対応が可能か確認した方が良いでしょう。

後遺症が発症した後の治療法で確立したものはありませんが、症状を軽減するさまざまな対症療法があります。また倦怠感、呼吸困難、せきなど一部の症状に対しては、罹患後の早い段階で抗ウイルス薬・エンシトレルビル（ゾコーバ）を内服することで発症頻度が減少する可能性が一部の専門家から指摘されています。

感染後、数日間にわたり症状が強く続く場合は早めに病院を受診し、薬の処方を相談されることをお勧めします。その際は発熱が3日間以上続く場合を受診の一つの目安としてみてください。

新型コロナウイルスの後遺症

1 2……第7波以降は減少傾向
3 4 5…1カ月以上続く場合は特に注意

主な症状	診療科
動悸・息切れ、下痢・腹痛、頭痛、発熱、倦怠感など	内　科
せき、呼吸困難、息切れ、胸痛など	呼吸器内科
嗅覚障害、味覚障害、目まいなど	耳鼻咽喉科
頭痛、記憶障害、倦怠感、集中力の低下、抑うつなど	神経内科
気力の低下、不安感など	精神科
脱毛など	皮膚科
小児にかかる症状	小児科

＊隔週火曜に掲載